

《史跡見学会感想》

市内歴史探訪に参加して

石川 学

八月二十六日、境川小学校まで歩いて行きました。好天に恵まれ、朝から汗だけで、学校に着いたときには、早くも四〇名ばかりの人が来ていました。三重野先生、矢島先生の挨拶があり、早速探訪が始まりました。

先ず天満神社、ここでは三重野先生と同級生の首藤さんが、神社の全てを分かりやすく説明してくれました。小学校時代は机の下に隠れて、じっと焼き芋を食うたとか、戦時中の一番厳しい時代と一緒に苦労して勉強に励んだなどの話もありました。首藤さんの説明では、神社は一度火災にあって寂れたそうですが、今は有志の方々の努力のお陰で、立派に再建されたとのことでした。

お宮は菅原道真公を祭り六月二十六日が大祭です。参道に一富士・二鷹・三茄子の凶形が敷石に描かれ、気軽にお参りができます。正面には道真公の誕生年の丑年に因んで牛のマークや牛の像などが掲げられています。別棟には納品室があり、

御神輿と台車がありました。四月一日の温泉祭りに、生徒さんに引張って貰うそうです。

境内の一隅には昔水害で流されて壊れた鳥居も束ねて置かれています。心寂しい思いがしました。また近くには田吹繁子さんの銅像がありました。歌人として有名で、昭和三十三年には、大分合同新聞社から文化賞を贈られています。氏は豊後大野市朝地町の生まれで、夫と死別した後別府に居住したそうです。

次に別府大仏跡に行きました。大仏の高さは二六・八メートル、日本一といわれ、奈良の大仏より八メートルも高かったと云います。昭和三年に建立され、平成元年に老朽のため取り壊されました。跡地の裏手の堂には、実物の十分の一の大仏像が祀られていました。

無くなった大仏様を何とか復元したいものです。

此処には旧海軍一生活会の「一生庵」があり、戦死した一六六柱の霊を祀っています。祭主は湯布院の足利宗彦徹堂住職です。住職さんはアキの来ない面白いお話しをしてくださいました。・・・聞いて下さい。「何宗ですか・・・九州です」、
「何派ですか・・・入れ歯です」。知らぬ振りをして話す、聞けば聞くほど話が続いて、そのまま続くと二時間はかかると

危俱したところで終わりました。

日暮庵に行き、昔は「海・陸豊前街道」、両筑街道「堀田鳥居線」の分岐点に位置していた交通の要、古くは文政五年に堀七衛門が改築したという。以後の改築碑も境内に建てられている。途中野口墓地で旧割烹なるみ高岸家の墓石を見学、野津原の七瀬川から運んだという大きな堅い石でした。

野口に入り、野口中央温泉看板題字、甲斐家の住居で油商人をしていたころの江戸時代の土蔵造り、延命地蔵尊を見学。さらに足を延ばし財閥酒舗、山田別荘などについて説明があったが、途中話がかわって矢島先生が、境川のことを話してくれました。

境川小学校は昭和三十九年に野口小学校の境川分校として建てられました。現在は生徒数五五〇人です。今の河川は一級河川で七キロ上流は家庭用水道として利用されています。

江戸時代に水害があつて、昭和九年頃からコンクリートで防壁を造った。川中に見られるのは別府石で、鶴見山の噴火で流出した石が流れて丸くなり、三色からなっているという。

正式には角閃安山岩と云いますが通称別府石です。

北浜方面に入り、大分市鶴崎の代官惣庄屋の家屋を移した秋吉邸に行きました。塀は阿蘇の石ということですが、鶴崎

が肥後領であったからということで、昭和二十年に秋吉医師家の所有となったとのこと。

西本願寺別院を訪れました。晩年別府に居住した西本願寺二世法主でシルクロードを探検した大谷光瑞の記念館がありました。私は用事のため見学出来なかつたので分かりませんでした。最後の海門寺には、しぐれ松があります。なお横手には昔墓地が沢山ありましたが全部野口に移されたそうです。

以上私の思いつきの感想文です。市内探訪に参加して、他の人にも見てもらつたらと思いました。私自身も別府市内に数々知らないところがあります。今日は猛暑の中、楽しく探訪が出来勉強になりました。後日を楽しみにしています。先生方、皆様方大変お疲れさまでした。

平成十九年八月二十六日

市内探訪記

中 根 剛 誠

今年には氣象庁が「猛暑日」を氣象用語に特定するほど、猛暑が続いた。八月二十六日、境川小学校に集まった九時半も既に炎暑。暑さに抗いつつ、役員の矢島さんと三重野さんの